

うおーみんぐ

NO.32 春

京都府地球温暖化防止
活動推進センター通信

地球温暖化問題に取り組む人のための通信です。

実践活動への意欲を、アイデアを、仲間同士の関係を、ホットに温めます！



写真

左上・右下：第3回推進員研修会の様子



特集

「低炭素型のすてきな
地域社会を描く」



 京都府地球温暖化防止活動推進センター
Kyoto Center for Climate Actions

動いています！
低炭素型 食の好循環づくりプロジェクト
活動レポート

お知らせ

京都府産木材展示施設の試験展示期間終了
インターネット環境家計簿のフードマイレージ計算コーナーをご活用ください

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成 15 年 10 月 10 日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げた NPO 法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

特集

「低炭素型のすてきな地域社会を描く」

「低炭素型の社会」と聞いて、皆さんはどんな社会を思い浮かべますか。それは、住んでみたいと思えるすてきな社会でしょうか。

私たちは、日々、温暖化防止活動を続けていますが、その先にどんな社会を作りたいのかをイメージしておかないと、道筋も描けませんし、周りの人たちの共感も得られませんよね。

そこで、平成23年度第3回地球温暖化防止活動推進員研修会では、内藤正明先生を講師にお招きし、『低炭素型のすてきな地域社会』をテーマにご講演いただきました。

ここでは、その内容の一部を簡単にご紹介します。



京都府環境審議会会長
滋賀県琵琶湖環境科学研究センター長
NPO法人 循環共生社会システム研究所代表理事
京都大学名誉教授

動き始めた滋賀県の取り組み

私は、長く京都で低炭素型地域社会づくりに向けた活動をしてきましたが、最近滋賀県での活動にも力を入れています。当時の國松知事から相談を受け、7年前に「2030年までに温室効果ガス排出量50%削減」という意欲的な、当時としては「気は確かか！」と言われるような目標を立てました。その後の嘉田知事も大変積極的で、実現性を不安視する声が出た折には、「できる、できないという議論をしている段階ではない」とはっきり方向性を示され、その結果、県庁のすべての課がこの目標達成に向けた対策を検討し、少しずつではありますが総合的な対策が進み始めています。

求められる本質的な変化

地球温暖化問題の進行により、すでに異常気象が見られ始めています。生態系の崩壊も進んできており、大変深刻な状況です。資源枯渇の問題も深刻で、石油生産量はすでにピークを越えたと言われており、今後減少に向かうことはほぼ確実です（図1参照）。希少金属の高騰も起こっています。水の枯渇も懸念されます。

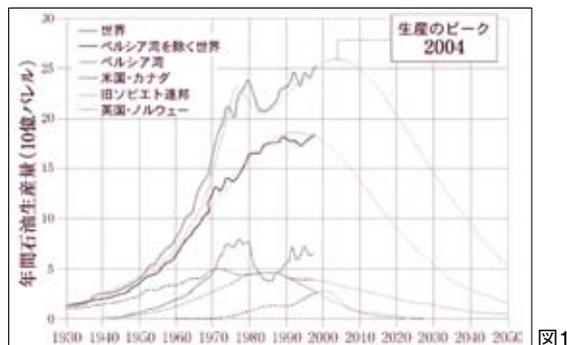


図1

これらの問題は密接に関連していますので、個別の問題を取り上げて対処療法的に取り組むのではなく、社会を本質的に変える必要があるというのが、私の基本的な立場です。

もはや逃げ道はない 選択が必要

現代は、歴史的に見れば、化石燃料に頼った束の間の繁栄の時期です（図2参照）。蛇口をひねればお湯が出るなんてことは、私たちが子供のころは考えられなかった状況です。社会は、ほんのひと世代程度の期間で急激に変わりました。今後は逆に、同じようなスピードで、化石燃料を使えない社会への移行が進む可能性が高いでしょう。

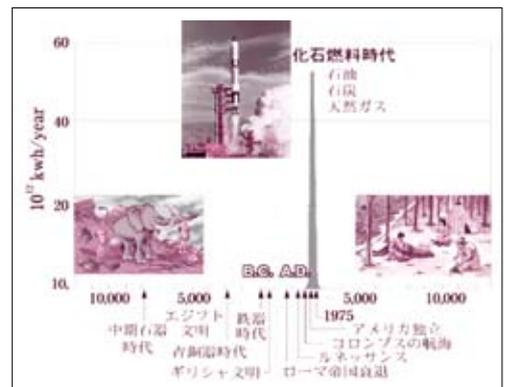


図2

ではどうするのか。選択肢の一つは、原子力発電をはじめとする科学技術によって実現する先進技術型社会。もう一つは、コミュニティを重視して価値観そのものを変える自然共生型社会です（図3参照）。アンケートをとったところ、後者を選択する人が多いという結果でした。3・11以降は、さらにその割合が高くなっているはずですが。



図3

ビジョン、行程表、ロードマップは3点セット

目指す社会像（ビジョン）を持ったならば、次は、そこに向かうための様々な対策をフロー図（行程表）にすることが重要です。これにより「一つひとつの対策は良いことをやっているが、どこに向かっているのかわからない」という状況が無くなります。滋賀県では、この行程表を、県庁のあらゆる部局の職員も一緒になって試行錯誤を重ねて作成しました。

行程表の中の対策のうち、どれをいつまでにやるべきかを書き込んだロードマップも必要です。「ビジョン」「行程表」「ロードマップ」がそろくと、道筋が見えてきます。なお、滋賀県では、予算査定は、この行程表が重要な判断根拠となっています。

絆で作る低炭素社会 東近江市の事例

モデルとなる自治体を探していたところ、東近江市が手を挙げてくださり、一緒に動くことになりました。しかし、住民の皆さんに「CO₂」と言っても、「身近な指標というわけではない」という感じで反応はいま一つです。そこで、数値は専門家が裏で計算することにして、まずは「どんな地域に住みたいか」を自由にどんどん出してもらって集約しました。抽出すると、自給自足、六次産業、公共交通の活躍、観光による活性化などに整理できました。さらに集約すると、「人と人とのつながり」、「人と自然とのつながり」にまとめられます。一言でいうと、「絆」ですね。

低炭素社会は、物もお金も地域循環する社会

この社会における生活の変化を数値化し、環境と経済への影響を計算すると、「低炭素型地域社会」という前提と矛盾しませんでした。具体的な変化を見てみ

みましょう。基準年に比べ、個人で過ごす時間は減り、家族や地域と一緒に過ごす時間が増えます。また、農林水産業や地域資源を活かしたサービスの利用が増えます。すると、地域外から入ってくるお金は減ってしまいます。しかし、地域外へと出ていくお金はそれ以上に減るのです。結果として、地域で循環するお金は増え、地域経済はかえって豊かになるという計算結果が出てきました（図4参照）。地域の自然エネルギー、水資源、農産物などを活かせば、温室効果ガス排出は減り、地域のお金は地域に残る。これが「つながりによる低炭素」です。

もちろん、50%削減実現のためには、技術の活用も必要です。ただし、これは一部の大企業しか実現できない技術ではありません。地元で実現できる、地元にお金も落ちる技術です。

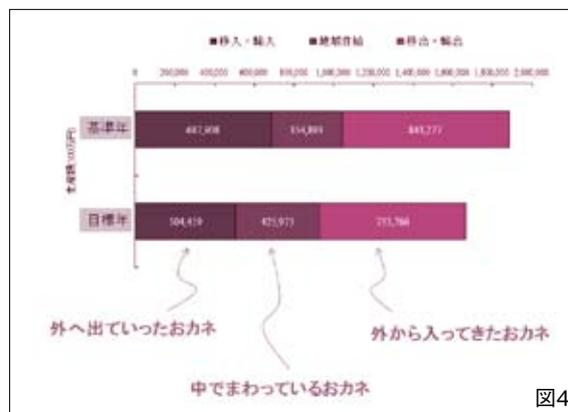


図4

低炭素社会を支える仕組みづくりを

「ライフスタイルを変えなさい」と言われますが、基盤がなくては実現できないことも多々あります。基盤整備のためには、法律の整備も必要ですし、お金も必要です。ただ、この場合のお金は、行政が出すものとは限りません。例えば、市民ファンドも重要になります。銀行に預けてごくわずかの利息を得るよりも、市民が自らの意思で地域のためにお金を使い、もちろん後々で少しの利益も得られる仕組みです。わかりやすい例が、市民出資による太陽光発電所でしょう。

最後に

皆さんは、どんな社会に住みたいですか、それをどう実現しますか。ぜひ、意見を出し合ってビジョンを共有し、そこに至る道筋を整理し、担い手となってそれを実現していきましょう。

(まとめ：木原浩貴)

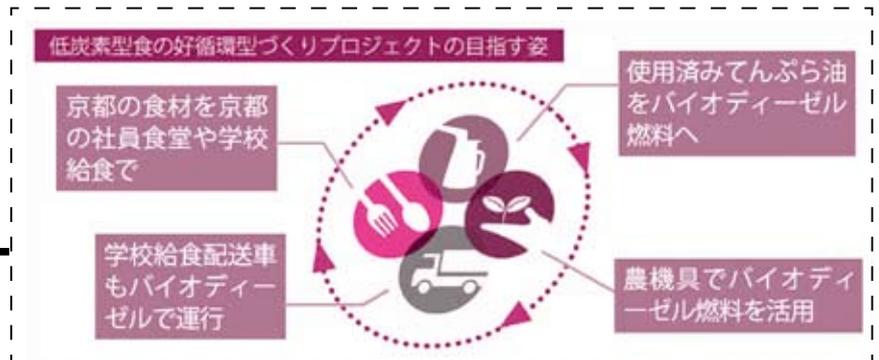
動いています！

→ 低炭素型 ⇒ 食の好循環づくり ⇒ プロジェクト

京 都府地球温暖化防止活動推進センターは、地域で活動するNPOや企業、行政と連携して、「低炭素型食の好循環づくりプロジェクト」を進めるため、平成23年度から「きょうと風土（フード）コンソーシアム」を立ち上げました。このコンソーシアムは、「低炭素×循環型農業」と「食の地産地消」を推進することにより、二酸化炭素の排出抑制とともに地域の活性化を図ることを目的としています。平成23年度は、以下の取組を展開してきました。

【23年度の取組】

- 1 食の地産地消でフード・マイレージCO₂を削減する
- 2 バイオディーゼル燃料利用による低炭素型農業・輸送でCO₂を削減する
- 3 それぞれの取組のCO₂削減量を見える化する

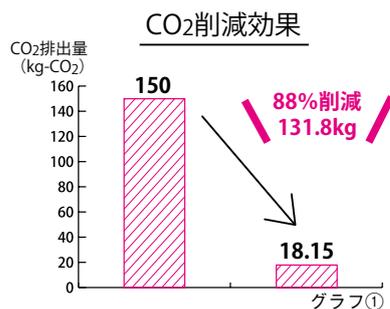


京都の食材を 京都の社員食堂や 学校給食で。

地域でとれたものを地域で食べる。このシンプルな取組が、地球温暖化防止にも繋がります。そこで、京都グリーン購入ネットワークと連携して、京都府内の企業や大学などの社員食堂で京都府産食材を使ったメニューを提供する活動を実施しました（平成23年10月から12月）。

京都府内23の社員食堂の参加があり、各食堂が京野菜や京都府産米の利用拡大に取組みました。また、今年度は京都府産水産物の利用拡大のための意見交換会を実施したことで、6つの食堂で舞鶴産ハタハタ、トビウオ、キス、ぶりなどもメニューに登場しました。（写真①）

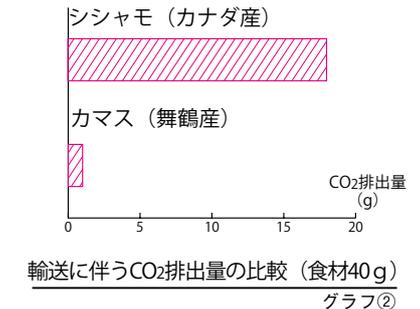
地産地消を進めると、食材の輸送エネルギーが縮小され、フード・マイレージCO₂を削減できます。今回の社員食堂の地元産食材利用で、併せて131kgのCO₂排出量を減らすことができました。（グラフ①）



今回のプロジェクトでは、学校給食での京都府産食材利用拡大にも努めました。京丹後市では、「京丹後まるごと食育の日」が3回実施され、京丹後市の食材が京丹後市全域で提供されました。木津川市では、給食週間の地産地消メニューの中に初めて舞鶴産かますのフライが登場し、およそ4000食が提供されました。（写真②）

今回の取組で外国産の魚を京都府産魚に変更した時のフード・マイレージCO₂排出量も計算することができました。これまでカナダ産ししゃもを使っていたのが、舞鶴産かますに変えたことで、1食あたり17g-CO₂削減につながる事が試算で分かりました。（グラフ②）

今回のプロジェクトでは、「京都で獲れた魚を京都で食べる」こと



が、地球温暖化防止につながる事が裏付けられました。京都で獲れた魚の殆どは大阪や東京で消費されており、京都での消費は1割程度ですので、京都産の魚を食べる取組の拡大が望まれます。



社員食堂がなくてもできる地産地消ランチ。

京都府地球温暖化防止活動推進センターには、社員食堂がありません。そこでケータリングを利用して地産地消の昼食を食べる試みを10月から12月の間で5日間行いました。「畑カフェおいしい」の協力を得



★旬のおかずレシピ

て、京田辺市の畑で作られた旬の野菜をふんだんに使ったランチを提供していただきました。また、これに併せ、秋から冬にかけての地元食材を使った「旬のおかずレシピ」も作りました。この5日間の取組で減ら



★地産地消ランチ

せたCO₂排出量は2.78kgでした。量としては少ないですが、一人ひとりが地産地消を進めることで、確実に温暖化防止につながる事が実感できる取組となりました。



バイオディーゼル燃料利用で農業を低炭素型に。

回収された廃食油から精製されたバイオディーゼル燃料を軽油の代わりに使用すると、CO₂削減に繋がります。生産も低炭素型で行う試みのひとつとして、バイオディーゼル燃料（C-Fuel）を農作業に使用してもらう実証実験を行いました。この取組は、NPO法人エコネット丹後、NPO法人丹後の自然を守る会、京丹後市役所、レ

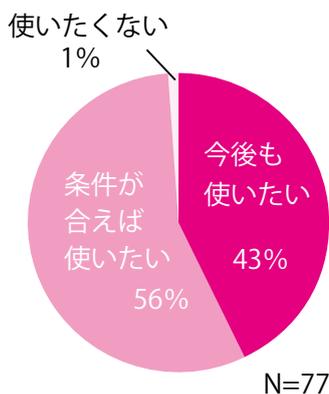
ポインターナショナルの協力を得て進めることができました。

77軒の農家にバイオディーゼル燃料を使ってもらい、アンケート調査を実施したところ、全ての農家が、トラブルなく運用できたという結果になりました。43%の農家は「バイオディーゼル燃料を引続き使いたい」と回答しており、「条件が合えば使いたい」も含めると99%の農家が今後も使用したいと答えました。今回の取組に参加したことをきっかけに、バイオディーゼル燃料を継続的に使用することを決めた農家もあります。

学校給食配送車もバイオディーゼルで運行。

輸送も低炭素を目指すことを目的に、京丹後市内の学校給食配送車でバイオディーゼル燃料を使う実験を2011年9月末から2ヶ月間行いました。トラブルもなく運用できたことで、2012年度4月からは、京丹後市により継続的にバイオディーゼル燃料が使用されることになりました。

Q バイオディーゼル燃料を今後も使いたいですか

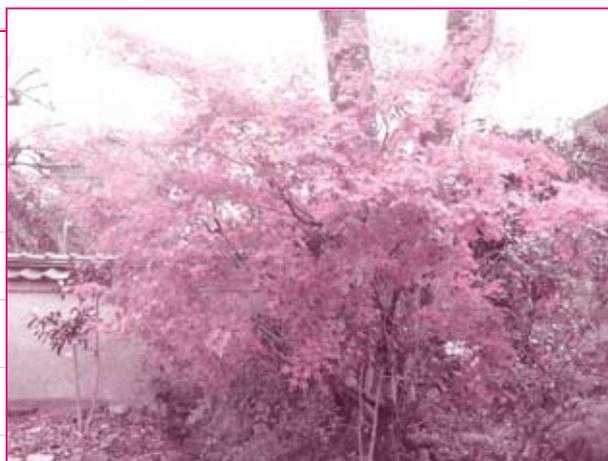


「バイオディーゼル燃料を使っています♪」



2011年秋 カエデ紅葉日の変化は？

今年度で4度目を迎えるカエデ紅葉日調査は、観測地点が44地点にのぼり、京都府地球温暖化防止活動推進員に行政関係者、龍谷大学の学生、園部高校の生徒さん、一般の方など39名にご協力いただきました。平成23年秋も、紅葉が一番早く始まったのが、南丹市の美山町や園部町で、11月18日と報告がありました。また、京都市では11月27日から12月11日ころが紅葉日との報告が多数ありました。過去3年の京都府内の紅葉日の変化は表1のとおりです。京都気象台のカエデ紅葉日（表2）の変化と比べて、



ほとんどの地域でも同じような傾向があり、毎年紅葉が遅くなっていることが分かります。

京都府内の気象台には、舞鶴市と京都市内の2ヶ所に観測所がありますが、市民参加型のこのような調査が、地域の観測所の役目を果たしています。継続的な観測の積み重ねが、地域情報の宝になります。今後も引き続き調査を実施しますので、ぜひご協力下さい。

※紅葉日とは、もみじの樹全体の葉80%が紅葉した日を言います。

表1 過去3年の京都府内各地のカエデ紅葉日（継続調査地点6ヶ所）

地点	2009年	2010年	2011年
美山町・園部町	-	11月14日	11月18日
京都市北区	11月28日	11月25日	12月3日
長岡京市芝の里北公園	11月21日	12月5日 (90%)	12月4日
八幡市	11月20日	11月21日	11月27日
宇治市黄檗公園	-	11月22日	11月27日
城陽市水渡神社	11月24日	11月28日 (100%)	12月4日 (100%)

表2 過去3年の京都気象台のカエデ紅葉日

京都気象台	12月6日	12月13日	12月14日
-------	-------	--------	--------



2012.01.21

第8回京都・環境教育ミーティングに参加しました

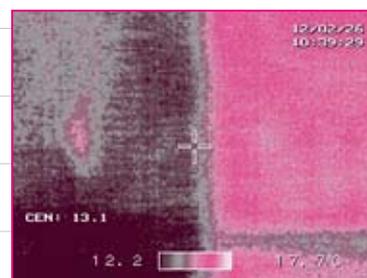
今年で8回目の開催となる「京都・環境教育ミーティング（京エコロジーセンター主催）」に参加し、「夏休み省エネチャレンジ」事業について報告を行いました。

今年是全国から77の事例が報告され、301人の方が参加されました。環境教育の事例報告と言っても、報告されたテーマは自然エネルギーの活用、里山保全活動、自然観など多種多様でした。綾部市、宇治市、京丹後市、福知山市、京都市の推進員さんも報告されており、実にたくさんの方が環境教育活動に励まれていることが実感できました。



「ホットお助けプロジェクト」をお手伝いしています

京都市では、学区単位で低炭素地域づくりに取り組む「エコ学区」事業が進められており、当センターは、西京区境谷学区の「ホットお助けプロジェクト」をお手伝いしています。このプロジェクトでは、学習会で「対流」「放射」「伝導」という熱の伝わり方について学んだ後、各家庭で断熱マットなどの省エネグッズを使用し様々な場所の温度を計測してもらう地域ぐるみの実験を実施中。また、3件のご家庭には当センタースタッフが出向いてサーモカメラを使った温熱環境診断を実施、窓の簡易リフォームを行って効果を計測しました。結果、結露が減少し、温度も上昇するという結果が得られました（右は、サーモカメラで移した窓の写真。左側が簡易リフォーム前、右側が簡易リフォーム後です）。



低炭素杯2012が開催されました

2月18日～19日に、東京ビッグサイトにて「低炭素杯2012」が開催されました。低炭素杯は、各地で活動する学校・有志・NPO・企業などの方々が、温暖化防止活動のプレゼンテーションを通じて様々な方々と交流を深め、学び合い、連携の輪を広げていくことを目的とする事業。書類選考を勝ち抜いた41団体がプレゼンテーションを行い、「栃木農業高等学校地域おこしプロジェクト班」の取組「守れヨシの湿原、とりもどせ農村のヨシズ作り」がグランプリを受賞しました。

京都からは、長岡京市の「西山森林整備推進協議会」による「森を守り森を育てる～現代版里山維持システムの構築に向けて～」が出演。惜しくも入賞はなりませんでした。地域・企業・学校が連携して行う森林保全・バイオマス利用の事例を全国に発信しました。

（低炭素杯2012の概要や結果はこちら→<http://www.zenkoku-net.org/teitansohai2012/>）

お知らせ

京都府産木材展示施設の試験展示期間終了

昨年1月から設置・運営していた「京都府産木材展示施設」が、約1年の試験期間を終え、今年の1月31日に閉館しました。期間中にはたくさんの方に足を運んでいただき、ありがとうございました。

このような成果を踏まえて、「京都府産木材の利用を促進するための展示・販売のあり方」をまとめ、今後の普及につなげていきたいと思っております。

京都木材検索サイト (<http://www.kyomokumoku.net/>) では、1月末まで展示されていた製品を見ることができますので、気になる製品があれば、出展社に直接お問い合わせの上、入手可能か確認してみてください。



インターネット環境家計簿の フードマイレージ計算コーナーを ご活用ください

献立や使用する食材を選ぶと、フードマイレージCO₂が計算され、地場産を選んで購入した場合とあんまり考えずに購入した場合の比較ができるようになっています。

ぜひ毎日の献立の参考にお使いください。

<http://www.kyoto216.com/kakeibo/>

京都府家計簿 検索

※京都府温暖化防止センターが取り組むフードマイレージや地産地消に関する記事がp4~5に掲載されています。そちらもぜひご覧ください。

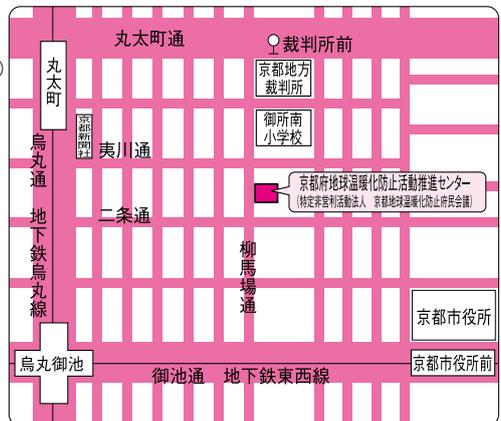
品名	単価	産地	CO ₂ (g)	産地	CO ₂ (g)	CO ₂ 削減
たまご	80	宮城県	15.3	京都府	0.2	15.1
じゃがいも	150	北海道	25.0	京都府	0.2	24.8
米	200	新潟県	14.5	京都府	0.3	14.2
りんご	80	青森県	7.8	青森県	7.8	0.0
平均	200	鹿児島県	20.6	京都府	0.2	20.4
合計	780	鹿児島県	68.2	京都府	0.9	67.3

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うぉーみんぐ」

(平成 24 年春号 平成 24 年 3 月発行 (年 4 回発行))

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター
 (特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議)
 理事長：郡 崙 孝 運営委員長：浅岡 美恵
 〒 604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283 番 4
 TEL：075-211-8895 FAX：075-211-8896
 URL：http://www.kcfca.or.jp E-mail：center@kcfca.or.jp
 編集：木原浩貴 伊東真吾 川手光春 竹花由紀子 西澤浩美 洲上佑樹 吉川春菜

法人の活動を支えてくださる会員を募集しています！
 年会会費 正会員 (個人)：2,000 円 正会員 (団体)：3,000 円
 準会員 (個人)：2,000 円 準会員 (団体)：3,000 円
 賛助会員：10,000 円
 詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。



この印刷物は、古紙配合率 100% の再生紙に、大豆インキで、風力発電による自然エネルギーを使って印刷しています。

